

- ② 住宅取得・改修に助成
- ③ 家庭に合った災害対策を
- ④-⑤ 特集 いつまでも輝く人
人とつながる 地域できらめく
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ



相模川



玉川

◀オオヨシキリ(ヒタキ科・全長 18.5 ㍎): 夏鳥として渡来し繁殖する。ツルヨシの先やヤナギの枝先に止まり「ギョギョシギョギョシ」「ゲシゲシゲシ」と大きな声で鳴く MEMO 相模川=富士山を源流としてとうとうと流れる大河には「厚木らしい」景色が多い

◀ササゴイ(サギ科・全長 52 ㍎): 川の中で魚を待ち伏せ、素早くくちばしで魚を捕まえる MEMO 玉川=哺乳類、鳥類、昆虫類などの生物を観察でき、そよ風を感じながら大山を仰ぎ見て心豊かに歩ける



中津川

▲ニシキウツギ(スイカズラ科): 咲き始めの白い花が紅色に変化して、同じ木に白と紅の二色が見られる MEMO 中津川=丹沢山地の西側から急峻な渓谷を流れる澄みきった水は心を洗う

自然を楽しもう

～健康・交流のみちで見つけた～



荻野川ルート

広町公園や荻野運動公園に隣接

健康・交流のみちを歩こう

河川沿いに伸び伸びと歩ける6ルートを整備しています。健康づくりを兼ねて、豊かな自然や行き交う人との交流を楽しみませんか。

相模川ルート

中津川ルート

小鮎川ルート



山梨県まで続く厚木を代表する河川



河川敷にはスポーツ広場などがある



市内の観光名所「飯山温泉」まで続く



道中に親水広場など憩いの場が広がる



晴れた日には大山を望みながら歩ける



一部ルートでは、散策の参考に見所を示した看板を設置しています。

道路整備課 ☎225-2324

▶カワセミ(カワセミ科・全長17㍎): 清流の宝石と呼ばれる美しい鳥。ダイビングして魚を捕える MEMO 小鮎川=豊かな田園風景を望める川。「鮎」の名があるように、昔からアユの姿が見られた

小鮎川



恩曾川



▲ナガサキアゲハ(アゲハチョウ科): ミカン類の葉に産卵し繁殖している。温暖化の影響なのか近年よく見られる MEMO 恩曾川=広い川ではないが、魚相は多くアユの遡上が見られる

▶イタチ(イタチ科・全長雄 45 ㍎ / 雌 30 ㍎): 石の上などに細長いふんを見掛けたらイタチがいた印。山麓や川沿いなどで見掛ける MEMO 荻野川=鳥類の観察に適した川で、運が良いとオオタカに遭遇することもある



吉田文雄さん

1943年生まれ。飯山在住。1993年から「広報あつぎ」で「自然歳時記」を連載中。県立愛川ふれあいの村学芸員。神奈川県フィールドスタッフや1級ビオトープ計画・施工管理士としても活躍

連載 25周年 広報連載 25周年特別企画 自然歳時記写真展

吉田さんが25年にわたり撮影してきた写真を展示します。四季折々の厚木の自然をお楽しみください。☎広報課 ☎225-2040

《日時》5月1日～15日 8時30分～17時15分
※日曜、祝日除く。土曜は午前のみ

《会場》市役所本庁舎正面玄関入口



荻野川

大空を飛び交い鳴き声を響かせる野鳥やかれんに咲く野の花、里山を駆け回る動物たち。東丹沢から広がる山林や相模川を中心とした水辺には、多くの動植物が息づいています。

「私たちの日常には、たくさんの方がありふれた風景として溶け込んでいる。目の前にも関わらず、気が付かないことが多い」。そう話すのは、「広報あつぎ」で市内の動植物の様子を伝える「自然歳時記」を執筆する吉田さん。1993年の連載開始以来、25年にわたり厚木の身近な自然を届けてきました。吉田さんは「自然の中で感じた不思議や驚き、発見や感動といった体験は、豊かな感性を育み、心身を健康にする。多くの人に自然を楽しんでもらいたい」とほほ笑みます。時間があれば自然を探しに散歩に出掛ける吉田さんは「汗を流すためのちよつとした健康目的の散歩の道中にも、たくさん生き物を発見できる。カメラを持って出掛けるのも良いですね」と自然を楽しむコツを話します。

新緑が鮮やかに木々を彩る5月。水辺の爽やかな空気に包まれながら、豊かな自然を探しに出掛けてみませんか。

Zoom Up

親元での近居・同居を応援

住宅取得・改修に助成

身近に頼れる人がいると、暮らしに安心とゆとりが生まれます。市では、市内に住む親世帯の元に市外から転居し、住宅を取得する世帯などに最大100万円を支援する施策をスタートしました。親子が互いに支え合い、ずっと住み続けたいと思えるまちづくりを進めていきます。

市の人口22万5千人のうち、65歳以上が24.6%を占め、今後とも増える見込みです。高齢化が進むと、高齢者への支援不足が懸念されます。一方で、共働きで親など頼る相手が身近にいない子育ては、保護者の孤立を招く恐れもあります。

最大100万円を助成

補助の対象は、市内に1年以上住む親世帯の元に近居や同居のために転入する子世帯です。

住宅を購入する場合は、同居が60万円、近居で40万円を補助。同居のため住宅を改修する場合は費用の10%

近居・同居で支え合い

親と子が近くに住み支え合うことは、生活にゆとりを生むだけでなく、家族の絆を深めます。息子家族と市内で同居する萩原富美さん(72・上依知)



世代を超えた交流は近居・同居の魅力の一つ

補助額	住宅取得		住宅改修
	同居	近居	同居
基本額	60万	40万	対象経費の1/10 (上限20万)
中学生以下の子がいる			10万
子世帯夫婦のどちらかが40歳未満			10万
定住促進地区(※)に住宅を取得			10万
1年以上市内に通勤			10万
最大補助額	100万	80万	60万(対象経費の1/2以内)

※依知北地区、小鮎地区、玉川地区、緑ヶ丘地区、森の里地区、まつかげ台、鳶尾1～5丁目、毛利台1～3丁目
補助金の申請は直接、住宅課☎225-2330へ。

多世代が近くに住むことで、日常生活はもちろん、災害時に助け合うこともできます。新しく家を建てようと考えている方や、子育てに悩んでいる方などは、親元への近居や同居で支え合う暮らしも選択肢の一つです。

市ではこれからも、将来にわたって活力あるまちであるために、高齢者支援や子育てサービスの充実など、多世代が住みよいと感ずるまちづくりを進めていきます。

地域に子どもの居場所を

子どもや親子、ひとり親家庭を対象に定期的に、安くておいしい食事を提供する子ども食堂事業



採用事例

地域の力でまちをきれいに

落書きをさせないまちづくりを目指して、市民の皆さんと一緒に消去活動を実施する落書き消去活動等体験事業



募集

皆さんの活動を応援します

市民活動推進補助金

ボランティアなどの公益的な市民活動をする団体に、事業費の一部を補助します。

- 対象**
- ①市民が自発的、自立的に活動
 - ②不特定多数の市民の利益増進が目的
 - ③市内に主な事務所や活動拠点がある
 - ④2019年度以降も継続して活動する見込みがある
 - ⑤構成員が3人以上の全てを満たす団体

補助額 補助対象経費から収入を控除した額の1/2(上限10万円)

あなたの力でより良い地域を

市民協働提案事業

地域が抱える課題の解決や市民サービスの向上を目指して、市民活動団体と市が協力する事業を募集します。

- 対象**
- ①活動拠点が市内
 - ②代表者を含み3人以上の役員を置き、構成員の5人以上が市民
 - ③運営に関する会則があり、適正に会計処理されているの全てを満たす団体

いずれも募集期間は5月1日～6月8日。市民協働推進課や公民館、社会福祉協議会にある手引きを確認し、直接、市民協働推進課☎225-2141へ。



ハザードマップを基に家族で避難ルートを確認

Q Zoom Up

日頃の備えが命を救う

家庭に合った災害対策を

災害が起きたとき、落ち着いて適切な行動を取るためには日頃の備えが大切です。必要な備えは、住んでいる場所や家族構成などで異なります。台風シーズンや梅雨入りを前に、災害への備えを見直しましょう。

台風やゲリラ豪雨による大雨は突然発生し、私たちの身の安全を脅かします。昨年10月に上陸した台風21号は、土砂崩れや浸水など、市内で39件の被害を引き起こしました。災害に見舞われたとき、落ち着いて身の安全を守るためには、日頃からの備えが欠かせません。

身の回りに潜む危険を知る

災害への備えを考えると、初めに必要なのは、住んでいる所や職場など、日頃生活している場所に潜む危険を知ることです。災害時に考えられる被害は、川や山に近いなど、場所によって異なります。市総合防災指導員の小澤昭彦さん(63)は「避難所に行くまでに川を渡る必要がある場合、増水で通れなくなることもある。まずは近くの避難所を確認し、被害を想定しながら歩いてみることで、実際に災害が起きたときに焦らず行動できる」と呼び掛けます。

市では、洪水・土砂・浸水被害の想定を記したハザードマップを作成。市ホームページで公開している他、誰でも確認できるように公民館などの公共施設にも設置しています。避難場所が確認できたら、

災害の状況を想定しながら避難ルートを家族で話し合ってみましょう。

非常持ち出し品の確認を

災害が起きると、自分の命は自分で守る「自助」が欠かせません。援助が来るまでの間、食糧や水、薬などの物資を、最低7日分は用意する必要があります。食糧の備蓄には、用意している食材を定期的に食べて、無くなった分を買い足す「ローリングストック」が効果的です。常に新しい食品と入れ替わるため、賞味期限切れを防ぎます。小澤さんは「避難場所にも備蓄品の用意はあるが、全て十分にそろえられているわけではない。家庭でも必要な物資を用意しておくことが大切」と話します。

災害対策は、小さい子どもや高齢者がいるなど、家族構成によって異なります。家庭の実情に合った備えを、常に意識しておくことが重要です。

大切な命を守る備えを万全に

市では、4月から「急傾斜地安全対策工事補助金」や「乳幼児等災害時対応

「自助・共助・公助で備える」

災害が大きくなるほど、市などの支援「公助」は行き届きにくくなります。梅雨入りや台風シーズンを前に、自分の身は自分で守る「自助」の意識を改めて持ち、備えておきましょう。

もちろん、地域住民同士の助け合いも欠かせません。昔は、近所付き合いも多く、自然とみんなが顔見知りになっていました。普段からあいさつをしたり、地域のイベントに参加したりするなど、近所の方と交流しておくことが、住民同士で支え合う「共助」の力を高めることにつながります。自治会での防災訓練なども、9月の防災の日だけでなく、定期的に行いましょう。

災害は「いつ起きてもおかしくない」と、常に意識し備えておくことが大切です。



市総合防災指導員 小澤昭彦さん(63)

大雨の際 避難情報に応じた行動を

注意喚起(今後の気象情報に注意)

警報発表

正確な情報を素早く入手

携帯電話やパソコン、テレビ、ラジオで、気象情報や避難情報など最新の情報を入手



避難準備・高齢者等避難開始(高齢者などは避難を開始)

ハザードマップ(事前に確認)

公民館などで配布している他、市ホームページにも掲載



非常持ち出し品(事前に用意)

内容は、市ホームページや土砂災害ハザードマップで確認



避難勧告

(緊急避難場所などへ避難を開始)

避難指示(緊急)

(直ちに安全な場所へ避難)

状況に応じて安全な場所へ

避難の途中で危険を感じたら、建物の上階へ向かうなど、状況に応じて安全な場所へ避難

崖地の現地調査を実施

県では、土砂災害に備えるため、「土砂災害特別警戒区域」の指定に向けた基礎調査を進めています。被害を受ける恐れのある場所の地形や地質など、土地の状況を調べます。

場所 市内の崖地(急傾斜地)と、これに隣接する地域

時期 5月～

県厚木土木事務所河川砂防課 ☎223-1711

土砂災害に備えて

急傾斜地の工事費を一部補助

対象

住居に隣接する傾斜30度以上・高さ2m以上の急傾斜地(県が実施する急傾斜地崩壊対策工事の対象は除く)



助成額 対象工事費の1/3(上限300万円)

申請 直接、危機管理課 ☎225-2190へ。

帰宅困難となった園児・児童の安全を確保 約1万2000食 備蓄予定

大規模災害時に帰宅困難となった幼稚園児や市立放課後児童クラブの児童のために、災害時用食糧備蓄品の充実に計画しています。



好奇心を忘れずに

東京都健康長寿医療センター
医学博士 藤原佳典さん(55)

仕事を辞めた後、外に出る機会が減り、周囲との交流の場が少なくなると体力や精神面で衰えが出てきます。結果、徐々に老化が進み、日常生活を送る能力に支障を来す恐れがあります。そうならないために定期的な運動や地域活動への参加を心掛けてください。大切なのは常に好奇心を持って行動すること。新たな分野への挑戦が、仲間づくりや生きがいづくり、健康増進にもつながります。

少子高齢社会が進む日本では、退職を迎えたシニア世代の経験や知識を必要とする機会が増えていきます。セカンドステージの就労やボランティアなどから自分に合った活動を見つけ、身近な地域から盛り上げていきましょう。



演奏を通じてアンデスの文化や歴史を伝えたいとほほ笑む松橋さん

リズムカルに奏でられる南米民族音楽「フォルクロレ」の代表曲「コンドルは飛んで行く」。「アミューアツギ」の一室で開かれたイベント会場では、参加者たちが手拍子をしたり体を揺らしたりと、思い思いに音楽に浸っています。

南米特有の10弦ギター「チャランゴ」を軽快に演奏する松橋久郎さんは、趣味の音楽でたくさんの人に喜んでもらうため、公民館や福祉施設などで演奏会を開いています。

20年以上前、東京で見た路上ライブに魅せられ、演奏を始めた松橋さん。仕事の傍らグループを

結成し、年3回ほどのペースで公演を続けてきました。始めは楽器の演奏だけだったけれど、次第にアンデス文化の面白さのめり込んでしまつて、退職後は、民族楽器や南米の伝統料理も作るようになっていきます。

子ども会の役員なども務めてきた松橋さんは、若い頃から地域活動に力を入れてきました。今では、演奏会だけでなく、公民館などで楽器作りのワークショップや料理教室も開催。「自分の趣味から始まったことだけれど、地域の皆さんが喜んでくれている姿を見られるのが本当にうれしい」

趣味

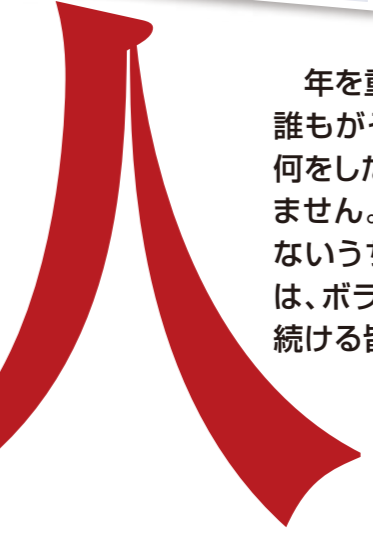
大好きな音楽でつながる

フォルクロレ演奏 松橋久郎さん(62・岡田)



いつまでも輝く

人とつながる 地域できらめく



年を重ねても生き生きと在り続けたい。誰もがそう願う一方で、退職後に「これから何をしたらいいのか」と悩む人も少なくありません。家でただ過ごすだけの生活は、知らないうちに心身に悪影響を与えます。今回は、ボランティアや仕事、趣味の分野で輝き続ける皆さんを紹介します。

☎介護福祉課 ☎225-2224

あつぎ 元気Wave
ケーブルTV 5/1~
退職後も輝く人を紹介

無理なく自分に合った活動を

知識や経験が生かせる活動から始めましょう。

元気で、仲良く、楽しく 60歳から参加できる

しあわせクラブ会員募集中

地域の仲間との居場所づくりや生きがいづくりが楽しめます。地区や趣味ごとにクラブがあり約4500人の会員が活動しています。興味がある方は気軽に参加してください。

仕事を退職して、時間ができたので陶芸を始めました。ただ作品を作るだけでなく、展示会の企画やサークルのメンバーとの交流が楽しみの一つになっています。

趣味サークル「陶芸愛好会」の 渡邊悦子さん(69・林) ☎市しあわせクラブ連合会 ☎225-2250

知識や経験を生かそう まちの困り事を解決

シルバー人材センターで働こう

植木の剪定から高齢者の介助など、幅広い分野の仕事が選べるシルバー人材センター。市内在住の健康で働く意欲のある60歳以上の方ならどなたでも始められます。

元々、消防士をしていて体力に自信があったので、この仕事を選びました。家でただ過ごすよりも、体を動かして健康維持につながるだけでなく、仕事がかっかけて地域に知り合いも増えました。

☎公益社団法人シルバー人材センター ☎224-9585

子育て世代を応援 乳幼児~小学生を見守り

ファミリー・サポート・センターに登録を

センターは、子育てを助け合う有償ボランティアによる会員組織です。「子育ての経験を生かしたい」「空いた時間を有効活用したい」方にお勧めです。

「働く子育て世代」を助けられればと思い、始めてから17年が経ちます。仕事をしていても都合に合わせてできるので無理なく続けられますし、子どもたちと過ごす時間は、私の元気の源になっています。

☎市ファミリー・サポート・センター ☎225-2933

「開発した物が製品化され、世の中に広まり、多くの人に喜んでもらう。それが『ものづくり』の醍醐味」。下河部龍治さんは、自身が開発した自動運転を可能にする人工知能(AI)装置の普及を目指し、県の「さみロボット産業特区」の施設で一人、実証実験を続けています。

54歳まで自動車部品メーカーのシステムエンジニアとして働いてきた下河部さん。早期退職後は、大阪府の企業に勤めていたが、厚木市がさがみロボット産業特区となったことをきっかけに起業を志します。「以前から手掛けてきた独自のAI装置を完成させて、世の中に広めたい」と、市の起業スクールで、会社経営のノウハウを学び、昨年5月に会社を設立。



仕事

知識や経験を次世代へ

自動運転システム開発
下河部 龍治さん(62・鳶尾)

自動運転の実現に向けて日々開発に励む

「仕事じゃないから、まずは自分が楽しむこと。それが、生き生きと活動を続けることの秘訣かな。自分の好きなことで誰かが喜んでくれたら最高だね。趣味を通して、多くの人と喜びを分かち合う。今日も松橋さんの奏でる音楽が、たくさんの笑顔を生んでいます。」

と、活動の幅を広げています。

「仕事じゃないから、まずは自分が楽しむこと。それが、生き生きと活動を続けることの秘訣かな。自分の好きなことで誰かが喜んでくれたら最高だね。趣味を通して、多くの人と喜びを分かち合う。今日も松橋さんの奏でる音楽が、たくさんの笑顔を生んでいます。」

facebook あつぎのいいところに参加しませんか?

皆さんからとっておきのオススメスポットを募集しています。あなたも市の魅力を全国に発信しませんか。

☎(一社)市観光協会 ☎240-1220



フェイスブックを活用して厚木の魅力を発信

ボランティア

新たな発見と出会いの場

観光ボランティア 長谷川和美さん(62・森の里)

厚木の里山を鮮やかに彩るシヤクナゲの花、ピンクや白の山桜が楽しめるハイキングコース。長谷川和美さんは、市観光協会が運営するフェイスブック「あつぎのいいところ」に、旬の厚木の姿を投稿し全国に市の魅力を発信しています。2年前「あつぎ観光ボランティアガイド協会」に加入し、市内の神社をはじめとする史跡やハイキングコースを巡るツアーなどを会のメンバーと企画。「お客さんに『また参加したい。今日はありがたい』などと声を掛けられることが本音にうれしい」と、市内全域を駆け回る日々を送っています。

「58歳で退職するまでは、産休以外休んだことがないバリバリの仕事人間。働くことが大好きでした。そう話す長谷川さんがボランティアの道を選んだのは、退職後に障がい者や高齢者の支援を始めた父親の姿からでした。「92歳になった今も周りから頼り」

にされている。年を重ねてもできることはたくさんあると分かった」と、自分にできることを探し始めます。そんな時、亡くなった母親が残した厚木の観光ポкетブックを目にした長谷川さん。もともと、神社巡りなどが好きだったこともあり、観光ボランティアの研修を経て、ガイドとしての活動をスタートさせました。

長谷川さんは退職後にガイドを始め、自分の世界がさらに広がったと感じています。「仕事をしていた頃は、自分が住んでいる厚木のことを知らなかったし、周りに住む人たちの交流も少なかつた。新しい出会いや発見に喜びを感じている」と笑顔を見せます。「これからは前職で培った英語力も生かしていきたい。体が動く限りは続けますよ」と前を向く長谷川さん。はつと自分の道を走り続けています。



長谷川さんのガイドは、はっきりと分かりやすく、親しみやすいと参加者からも評判

「起業の夢をサポート/起業スクールで学ぼう」

開業の手続きからビジネスプランの作成まで、起業に必要な知識を専門家から学ぶ場所です。起業を志す人はお申し込みください。

☎募集期間 7月~ ☎産業振興課 ☎225-2832



自動運転の実現に向けて日々開発に励む

サクラと笑顔が咲き誇った9日間

第54回あつぎ飯山桜まつりを開催



華やかで迫力満点のさくら興

笑顔が浮かべていました。

3月31日～4月8日に飯山白山森林公園で「あつぎ飯山桜まつり」が開催されました。期間中は天候に恵まれ、満開のサクラの下で、ダンスコンテストや飯山白龍太鼓・白龍の舞、女性だけで担ぐ「さくら輿」など多彩な催しが繰り広げられ、来場者を楽しませました。

会場では花見を楽しんでいた金丸真広さん(36)と見玉業津美さん(29)は「芝生の広場でのんびりと素敵なサクラを楽しめただけでなく、にぎやかな祭りに自然と心が躍った」と笑顔が浮かべていました。

通勤ラッシュ時の渋滞解消へ

市道赤坂竹ノ内線が開通

県道603号(上粕屋厚木)から日産自動車株式会社テクニカルセンター入口までを結ぶ市道赤坂竹ノ内線が3月24日に完成しました。路線の開通により、赤坂交差点(愛甲西)の通勤時の渋滞解消が期待されています。開通式には、小林常良市長や地域の皆さんなど約700人が出席。テープカットや親子三代による渡り初め、クラシックカーでの通り初めなどで新たな道路の誕生を祝いました。



念願の道路開通を祝った開通式



自分たちのまちは自分たちで守る

新消防団員が訓練を実施

北消防署陸合分署で4月8日、新たに消防団員となった55人に消防器具の使い方や規律などを教える研修を開催しました。基本の姿勢や整列方法、敬礼動作の他、器具の取り扱いなどの訓練を実施しました。



ホースの収納方法を学ぶ新消防団員

1歳児のケーキ作りが高評価

子中保育園が食育コンテストで優秀賞

全国の幼稚園、保育園を対象にした「第12回食育コンテスト」で、県内で唯一優秀賞を獲得した子中保育園の大塚貴史園長や園児たちが、小林市長に受賞の喜びを報告しました。



「クリームを塗るのが大変」と教えてくれた園児たち

保育園では「1歳児たちのケーキづくり・子どもたちと保育士の2カ月にもわたる対話的保育実践」をテーマに食育活動を展開。園児と保育士が、ままごとや買い物体験などの遊びを通してケーキの作り方を学び、最終的に1歳児が本物のケーキを作った取り組みが評価されました。



ATSUGI X NEW ZEALAND ホストタウン通信



調印した覚書を手にする小林市長ら

同様の覚書の締結は、ホストタウンとして全国で初めての事例です。覚書では、子どもや教職員、学校間の交流、相互の留学情報の共有などが約束されています。

覚書に調印した小林市長は「子どもたちに国際的な視野を育んでもらい、世界へ羽ばたく人材となってほしい」と話しました。市では、昨年度も実施した留学プログラム「Fly to NZ Project」を8月と2019年3月に実施する予定です。今回の覚書の締結を契機に、世界で活躍する人材の育成に力を入れていきます。

2020年東京オリンピック・パラリンピック(東京五輪)に向けて、ホストタウン相手国となったニュージーランドとの交流事業などを紹介します。

大型バスの発着場が保健センター跡地(中町)に完成し、4月から大学バスや観光バスが利用を始めています。



スクールバスを待つ湘北短期大学の学生と

市街地に大型バスの発着スペースがないことは、まちづくりを進める上で課題の一つでした。市民の皆さんや経済界からは「市内発着場が市外に変更になった」「路上停車するバスが、自転車の通行を妨げたり、交通渋滞を引き起こし

場を整備する決断をしました。ツアア会社によると、「本厚木発」への期待は高く、今後は市外に流出していたバスを戻す意向があるということ。大学からも、路上停車の回避を喜ぶ声をいただきました。周辺には、多くの商業施設もあります。この発着場のオープンをバス利用者の利便性向上だけにとどめず、市街地のにぎわいづくりにもつなげてまいります。

タウンガイド

5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

マイタウンクラブ
 ①印の番号で、ウェブ上から詳しい情報を確認できます。「①」
 と記されたものは、申し込みも
 できます。
 ②=申し込み ③=問い合わせ
 ④=電話番号 ⑤=ファクス番号
 ⑥=Eメール ⑦=市ホームページ

アミュあつぎに「夢未市」が特別出店

5月12日、10時～14時。アミュあつぎ。JAあつぎ農産物直売所「夢未市」が特別出店。朝採れの新鮮な地場産野菜や厚木産の米「キヌヒカリ」などを販売。☎商業にぎわい課☎225-2834。

市立病院「看護の日」記念行事

5月9日、17時～17時45分=ロビーコンサート。7月27日、8月3日=1日看護体験(高校生対象、要申し込み)。5月7日～6月8日は写真展も同時開催。

いずれも会場は市立病院。無料。☎病院総務課☎221-1570。

JAあつぎいきいき福祉教室

5月25日、10時～11時30分。JAあつぎ本所。福祉用具の種類や使い方などを学ぶ。市内または清川村在住の方40人。無料。☎5月18日までにJAあつぎ指導販売部☎225-7716へ。先着順。

県立職業技術校7月生を募集

《実施校》かなテクカレッジ東部・西部《コース》セレクトプロダクト、室内施工、ビル設備管理、庭園エクステリア施工《授業料》無料《対象

職業に必要な知識、技術・技能を習得し、就職する意思がある方《選考日》5月27日《募集案内・申込書》各校・ハローワークなどで配布中。☎ハローワークで事前手続き後、申込書を直接または郵送で5月14日(消印有効)までに各校へ。☎県産業人材課☎045-210-5715。

日本赤十字社の活動に協力を

5月は日本赤十字社「会員増強運動月間」です。日本赤十字社の活動は、皆さんの寄付で運営されています。2017年度は、市内で1631万955円の寄付をいただきました。☎日本赤十字社神奈川県支部厚木市地区事務局☎225-2200。

5月12日は 民生委員・児童委員の日

民生委員・児童委員は地域の身近な相談役です。高齢者・障がい者・児童に関する相談や援助など、福祉のことでお困りの方は、気軽に相談してください。地域を担当する委員は、福祉総務課☎225-2200へ。

工業統計調査に協力を

4人以上の従業者がいる製造事業所を対象に、調査を実施します。5月中旬から調査員が事業所に伺います。提出された内容は、統計作成

第5回 相模川ローズガーデンフェスティバル

約1300本の美しいバラと多彩な催しが楽しめるイベントです。ぜひ、ご来場ください。

【日時】5月19日 14時～(荒天の場合は翌日順延)

【会場】相模川ローズガーデン

【内容】ミニコンサート、阿波踊り、フラダンス、模擬店など



阿波踊り

《時間》11時30分～13時30分
 《会場》みなみ大通り

☎県央経営者会☎296-7010



※駐車場はありません

の目的以外には使用しません。《調査内容》従業者数、製造品出荷額、原材料使用額など。☎行政経営課☎225-2180。

本厚木駅連絡所(えきちよこ)を臨時休業

5月16日は駅ビル休館日のため、連絡所業務と観光案内業務を休業します。☎市民課☎225-2110。

善明川の洪水浸水想定区域図を作成

睦合北地区を流れる準用河川善明川が氾濫した場合に浸水する区域や水深、浸水継続時間などを示しています。☎や公民館などに掲示していますので、確認してください。☎河川ふれあい課☎225-2380。

暴力団被害 無料電話・来所相談会

5月18日、10時～18時。神奈川県弁護士会(横浜市)。暴力団対策の専門家(弁護士・警察官・相

談員)による、暴力団や反社会勢力などの被害・紛争に関する相談会。電話相談も可(☎045-663-5671、当日限り)。無料。☎当日直接会場へ。☎県弁護士会☎045-211-7702。

色覚を考える展

8月31日までの毎週火曜～土曜、10時～17時。東京工芸大学厚木キャンパス。動物が見ている色彩を再現したバーチャルリアリティ(VR)体験や赤外線を利用したアート作品の展示など。無料。☎当日直接会場へ。☎東京工芸大学☎242-4111。

全国瞬時警報システム (J-ALERT) 全国一斉情報伝達試験

J-ALERTの情報伝達体制確認のため、防災行政無線で試験放送を実施します。《日時》5月16日 11時～ 気象状況により中止になる場合があります。

☎危機管理課☎225-2190

第44回 厚木市 緑のまつり

「緑とは 生きる地球の 生命線」
 境田 雄馬さん(依知中卒)作



日時 5月12日(土)・13日(日)
 10時～16時(荒天中止)
 開始式: 12日 9時15分～
 会場 厚木中央公園

内容 花と緑のステージ(ダンス・演奏など)、植木市、草花・野菜の苗販売、市の花サツキ展示会・苗無料配布(13時～。先着120人)・育て方講習会(14時～)、スタンプラリー、緑の相談、鉢物植え替え、市民朝市、各団体出店コーナーなど

緑に親しもう教室

《12日》コケ玉教室=①11時～②14時～。各回20人。500円。多肉植物教室=①10時～②11時～。各回10人。1500円。ギャザリング寄せ植え教室=①13時～②15時～。各回10人。1700円。《13日》押し花教室=①11時～②14時～。各回20人。100円。木工教室=①10時～②11時～③13時～④14時～⑤15時～。各回5人。500円。☎5月11日までに公園緑地課へ。先着順。

13日のみ

快盗戦隊ルパンレンジャーVS警察戦隊パトレンジャーショー ①10時30分～②14時50分～。
 花苗無料配布 13時～引換券、15時～花苗を配布。先着300人。

☎公園緑地課☎225-2412

インターネットモニターからの意見を紹介

いいメール Hot E-Mail

インターネットモニター募集中
 厚木市 インターネットモニター 検索
 ☎広報課☎225-2043

4月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆春の選抜高校野球での地元選手の活躍は誇らしく、力をもらった/50代女性◆教育大綱が子どもたちの学びを深めることにつながるのを期待している/40代男性◆高齢化は人ごとではないので、人材確保の仕組みづくりは必要だと思う/30代男性◆厚木が魅力いっぱいであることは実感していたが、「いいところ集めました」の記事で初めて知ったサービスなどもあり、参考になった/30代女性

編集後記

特集の取材で、松橋さんが南米楽器の製作をしている自宅に伺いました。そこには、南米の伝統的な弦楽器や打楽器、縦笛などがずらり。その数は300を超え、まだまだ意欲は尽きないそうです。楽器の製作や演奏を通じて、子どもからお年寄りまでたくさんの人とつながりができたという松橋さんの生き生きとした姿を見て、何かに夢中になると、自分の可能性を広げることができるんだと感じました/佐藤

5月
あつぎ
こども
月間

親子でものづくりを楽しもう!

少年少女フェスティバル

ジュニアリーダーや青少年指導員などと一緒におもちゃを作り、楽しく遊びませんか。

日時 5月20日 11時~16時 **無料**

会場 アミューあつぎ8階 屋内広場 Solal^{ソラ}ほか

内容 紙パック工作、空気砲、紙ブーメラン、万華鏡、かざぐるま、竹笛、輪ゴム鉄砲、水鉄砲、ゴリゴリプロペラ、のぼるあゆコロちゃん、しおり、スーパー竹とんぼ、たこ、プラとんぼ など



募集 ジュニアリーダーズクラブ



子どもたちのお兄さん・お姉さん役として、少年少女フェスティバルや地域のイベントなどで活躍しています。ぜひ、一緒に活動してみませんか。

対象 市内在住の中学1年~高校2年生

費用 300円(保険代)

青少年課にある申込書(市ホームページからダウンロード可)を直接、青少年課へ。

青少年課 ☎225-2580

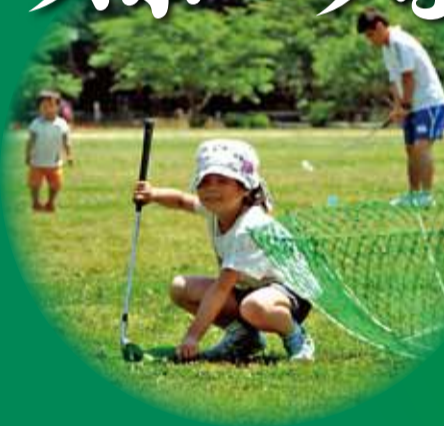
活動の楽しさを知ってほしい

中学2年生からジュニアリーダーとして活動しています。約150人のメンバーと活動していると、新たな発見があります。地域の人や子どもたちから声を掛けられることも多く、とてもうれしい気持ちになります。一緒に活動してこの楽しさを知ってほしいです。



ジュニアリーダーズクラブ
会長 青木桜歩さん(16)

スポーツなじみDAY **無料**



日時 5月19日 10時~15時30分

会場 荻野運動公園

屋内 バウンスポール、キンボール、ドッチビー、カーレット、ビーチボールなど

屋外 ターゲット・バードゴルフ、グラウンド・ゴルフなど

※雨天時は屋内のみ。室内履きをお持ちください。
当日直接会場へ。

スポーツに最適な季節。みんなで気持ちの良い汗を流しましょう。
スポーツ推進課 ☎225-2531

家族で気軽にスポーツを

子どもから大人まで、誰もが気軽に楽しめる種目を用意しています。私たちが付き添って、ルールや道具の使い方などを手ほどきしますので、初めての方も安心してお越しください。スポーツは、家族の絆を深めたり、新しい仲間を作ったりする良いきっかけになります。家族や近所の方と一緒に、汗を流してみたい方が多いです。



スポーツ推進委員
佐藤慎二郎さん(47)

連載 25周年 自然歳時記

● センダイムシクイ ●
ヒタキ科

全長13センチほどのとても小さな鳥。夏鳥として渡来し、丘陵地の広葉樹の林で「チヨチヨビー」とさえずり虫を捕まえている。鳴き声を頼りに探してみよう／鷲尾山の雑木林で見つけた。写真・文／吉田文雄



過ごしやすい暖かな季節、山野がもえぎ色から若草色に染まり夏鳥たちのコーラスが心地よく聞こえてくる。主な鳴き声の主は、キビタキ、クロツグミ、オオルリなどだ。時々センダイムシクイが「チヨチヨビー」と小気味よく鳴く。この鳴き声を「焼酎一杯グイー」と聞きなし、ハイキング帰りにみんなで一杯やろうと話が弾む。

センダイムシクイは見つけにくい鳥だ。目立つ所にあまり出て来ないし、色も黄緑色で周囲に紛れてしまう。鳴き声もそんなに目立つわけでもなく、この声が聞こえる人は耳が良いと言われるくらいだ。

5月は愛鳥週間(10日~16日)がある。身近な鳥が子育てする様子から、親鳥の愛情を感じよう。

厚木市の人口
(4月1日現在)

世帯数 9万8638世帯 (前月比351世帯増)

人口 22万5194人 (前月比295人減) 男11万6407人・女10万8787人